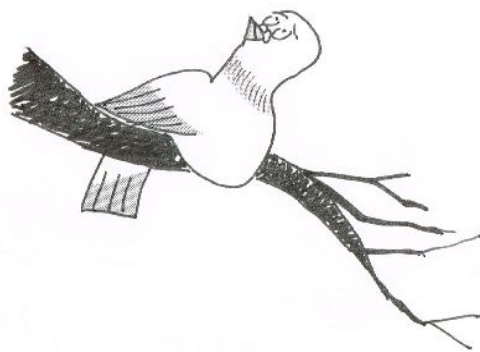


先週の回答



「ぼくのいらんだ通りだった」
 「何をにらんだんだ？」
 「友だちの鏡くんだよ」
 「鏡くんって、お前のクラスの委員長をしている秀才の、あの鏡くんか」
 「そう、あの鏡くんだよ」
 「鏡くんがどうしたんだ？」
 「彼は親孝行のカガミなんて言われているけど、ぼくは眉ツバだと思っていたんだ」
 「何が眉ツバなんだ。彼は母親が病気になる時、母を背負って病院に連れていったんだろう」
 「それで知らぬ間に、親孝行のレッテルを貼られてしまったんだよ。かわいそうに」

「何がかわいそうなんだ？」
 「一度親孝行をしてしまうと、もう引っこみがつかなくなってしまうんだよ。そこんところに気が回らなかったんだな彼は」
 「・・・？」
 「『ちよっと、ちよっと奥さん、あれが親孝行のカガミの鏡君よ』『やっぱり違うわねえー』『うちの子にも爪のアカセんじて飲ませようかしら』なんて評判になつて、もう嫌でも親孝行しないとカッコつかなくなってしまつて、彼、涙にくれてるんだよ」
 「それは言える。一度レッテルを貼られるとプレッシャーで、ずーっとそうせざるを得なくなることって、確かにあるなあ・・・」



「パパも一度ママの尻に敷かれてから、ずーっと尻に敷かれっぱなしなりましたもんね」
 「それじゃああたしが『かかあ天下』だつてレッテル貼られてるの！知らぬ間に」とママ現れる。
 「知らぬ間につて、知らなかったのはかあさんだけだよ」とぼくのパパ。
 因みに、鳩は親鳥が止まっている枝より三つ下の枝に止まって礼儀を守るという意味から親孝行を「三枝の礼」という。

